

# 第33回

# うつのみやこども賞だより

平成28年度 5回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ぼくたちのリアル』

戸森しるこ／著（講談社）

～読んだ本の感想より～



●友達のために行動する姿や、その言葉が胸にひびいてきた。自分の間違いを正しくなおしてもらえたり、自分のありのままの気持ちで話せたり、とても良い3人組だと思った。

●いつもクラスで人気者のリアルが、なやみとかをかかえていて、おどろいた。

●その後、サジとどうなったのか気になる。

●アスカとサジがいたから、リアルは自分の中にとじこめていた気持ちを話すことができたし、アスカはリアルとサジがいたから、今まで人のことをあまり考えずに行動してきたのに気づき、1歩ふみだすことができたから、最高の3人組だと思った。

●リアルとサジ、アスカのやりとりで、かなしい話や、おもしろい話などの会話がおもしろかったです。

●リアルはすごく友達をおもっていて、いい子だと思った。

『坂の上の図書館』 池田みゆる／著（さ・え・ら書房）

●本を読むことは楽しいことだとあらためて思った。

●だんだん過去のことやさかくをとろうとどりよくしているところが、力強くてかっこいいなと思いました。

●この本の中には、私が知っている本もでてきて、私と同じことを思ったんだとおもいながら読みました。

●読書リーダーは選定委員みたいだと思いました。

●友人や司書との出会いが、春菜を少しずつ変えていくところが感動した。

●市民図書館にいて、本に目覚めたところがおもしろい。

●春菜が、始めから最後まででたくさんかわったので、よかった。

『「水辺の楽校」の所くん』 本田有明／著（PHP 研究所）

●1人1人のそれぞれのじん地というのがあったなと思いました。

●水辺の楽校に行ってみたいなと思いました。

●読んだ後の「どうなったのか」という気持ちがあって、また読みたくなる。

●所くんからのプレゼントには感動したから。

●自然は大切だなと思えた。

●所くんが教えてくれた水辺の楽校で、クラスのみんなど仲良くなっていくのが楽しかった。

『わたしたちの家は、ちょっとへんです』

岡田依世子／著（偕成社）

●みんなそれぞれなやみをかかえていたけれど、みんなさいごには克服していたので、よかった。

●三人が本当の気持ちを言ったところが、すっきりした。

●優子と志乃のケンカにはハラハラしました。

●3人の生活が、親が離婚していて、大変そうだったし、かわいそうでした。

●複雑な家族と友達の関係だったけれど、3人が仲良くなっていておもしろかった。

●最初の話がすごくつらくて題名とのイメージがおかしくなりそう。